
[成果情報名] カキのフジコナカイガラムシに卓効がある殺虫剤の樹幹塗布法

[要約] 粗皮を剥いだカキの主幹部にジノテフラン（商品名：スタークルノアルバリン）顆粒水溶剤を塗布する樹幹塗布法を開発した。本処理法によりカキの難防除害虫フジコナカイガラムシの防除が可能で、土着天敵に対する悪影響や周囲への農薬飛散の心配がない。

[キーワード] カキ、フジコナカイガラムシ、樹幹塗布、ジノテフラン、防除

[担当部署] 病害虫部 病害虫チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

カキのフジコナカイガラムシは粗皮下や果実のヘタなどの隙間に好んで寄生するため、殺虫剤を散布しても薬液が虫体にかかりにくく、防除するのが非常に難しい。特に近年は恒常的に多発しており、カキ生産者からは効果の高い新たな防除法の開発が強く求められている。そこで、このようなフジコナカイガラムシの生態に対応した新しい防除法を開発する。
(要望機関名：生産流通課 (H19))

[成果の内容・特徴]

- 1 . 樹幹塗布法（図1）は、休眠期にバークストリッパー等で樹幹部の粗皮を40cm程度の幅で環状に剥ぐ、1樹当たり20～40gのジノテフラン顆粒水溶剤と同量の水を混合した薬液を刷毛等を用いて塗布する、の手順で行う（図2）。この処理により、4～5月に加害するフジコナカイガラムシ越冬世代の密度を低く抑えることができる（図3）。
- 2 . ジノテフラン顆粒水溶剤を樹幹塗布法で処理しても、フジコナカイガラムシの有力な土着天敵フジコナカイガラクロバチに悪影響を及ぼさない（データ略）。
- 3 . 本処理法は周囲の他作物への農薬飛散の心配がない。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 「福岡県病害虫・雑草防除の手引き」（<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/tebiki/toppu.html>）に登載し、カキのフジコナカイガラムシ防除対策として活用する。
- 2 . 処理に当たっては登録薬剤の使用基準を遵守し、普及指導センターやJAなど指導機関の指導を受けて実施する。
- 3 . 粗皮の剥ぎ方が不十分だと樹幹塗布の効果が低下する。

[具体的データ]

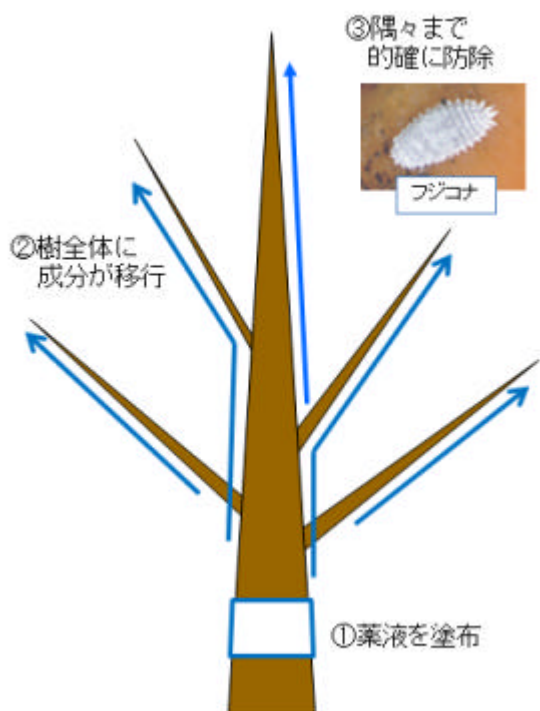


図1 樹幹塗布法の仕組み

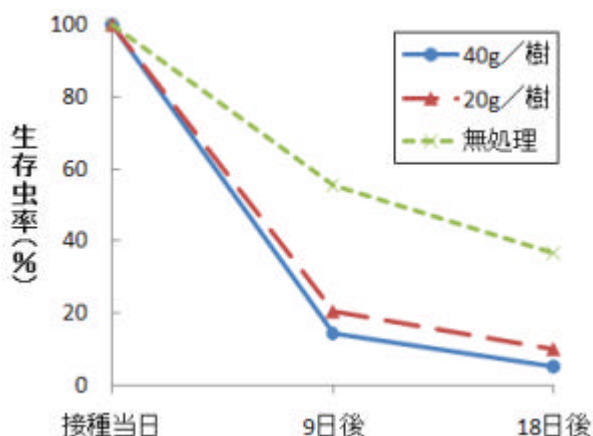
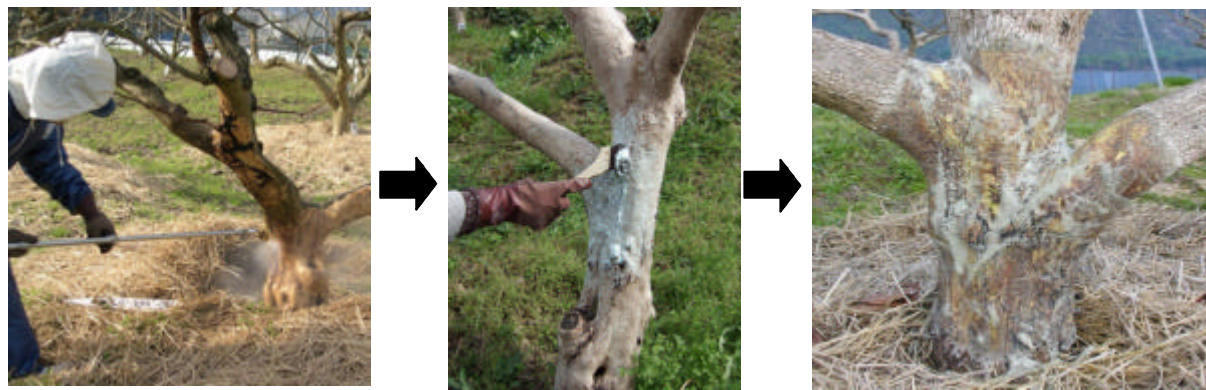


図3 ジノテフラン顆粒水溶剤の樹幹塗布によるフジコナカイガラムシに対する防除効果(平成20年)

- 注) 1. 3月12日に「富有」、「伊豆」(主幹部周り約60cm)の主幹部に40cm幅で同量の水と混合した薬剤を塗布。
 2. 4月21日にフジコナカイガラムシふ化幼虫約100頭/新梢を接種。



樹幹部の粗皮を削る

薬液を刷毛等で塗布する

塗布後の様子

図2 樹幹塗布法の処理方法

[その他]

研究課題名：殺虫剤の樹幹処理による果樹害虫防除法の開発

予算区分：経常

研究期間：平成21年度(平成19~21年)

研究担当者：清水信孝、手柴真弓

発表論文等：福岡県農業総合試験場研究報告第28号